

令和6年
2024年

11月25日
月曜日

第11602号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6か月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



姫路和牛枝肉品評会が、和牛マスター食肉センターで開催された……P3

- ▶ 大手サプライヤーインタビュー、プリマハム網野真常務執行役員食肉事業本部長……P2～3
- ▶ 姫路和牛枝肉品評会が和牛マスターで開催、井寄牧場が名誉賞に……P3
- ▶ 福留ハムが「ミートフェスタ広島」開催、新シリーズ「MIRAI」などを提案……P4
- ▶ 全肉連が京都競馬場でイベント実施へ—食育と和牛需要喚起に向け……P5
- ▶ 京都市場が牛内臓価格改定、12月2日と畜分から……P5
- ▶ ニュー・クイックがクリスマス商品の予約割を実施、期間限定販売も……P5
- ▶ パルシステム東京、畜産から生まれる電気を発電所からリアルタイム配信……P6
- ▶ オリジン、「倍バーグ大作戦!!」でお得にボリュームアップ……P6
- ▶ 中国農業農村部、豚と牛の生産動向について見解を公表……P7
- ▶ 【東京食肉卸売市場】牛、豚ともにもちあい……P8
- ▶ 【大阪市食肉卸売市場】牛11月はもちあい、豚異例の高値基調続く……P8
- ▶ 松のや、しっとりやわらか「丸太ヒレかつ定食」新発売……P8
- ▶ [資料] 令和6年度、国内における鳥インフルエンザ発生状況……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 22日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 22日……P11

注目のヘッドライン

大手サプライヤーインタビュー
プリマハム網野真常務執行役員食肉事業
本部長

…詳細はP2～3

姫路和牛枝肉品評会が和牛マスターで開
催、井寄牧場が名誉賞に

…詳細はP3



第49回
2025 食肉産業展
2025 Japan Meat Industry Fair 49th.

開催テーマ **肉のサステナビリティとイノベーション** フードテック ジャパン2025 同時開催

2025年 3月11日(火) ⇒ 14日(金)

於: 東京ビッグサイト 東7ホール 主催 ●食肉産業展実行委員会 後援 ●農林水産省、厚生労働省ほか

食肉産業展事務局 株式会社食肉通信社 ☎03-3663-2011
食肉産業展HP <https://www.shokuniku-sangyoten.jp>

大手サプライヤーインタビュー プリマハム網野真常務執行役員食肉事業本部長

ー2023年の実績と24年の計画は。

23年度は、国産は数量ベースで前年比微増、金額ベースで前年比105%、輸入は数量105%、金額109%、合計ではそれぞれ102%、107%となりました。

24年度は、数量ベースで国産106%、輸入103%、全体では105%を計画しています。金額ベースでは国産、輸入ともに110%を計画しており、共に現状は順調に推移しています。

国産では宮城新農場の稼働が順調で、輸入では主要な取扱ブランドであるカナダのハイライフポークが好調。さらに今春から新たに米国のホールストーン社との取り組みを開始しました。

今年は牛肉の販売環境が非常に厳しい中、豚肉や鶏肉に需要がシフトしており、豚肉の需要は堅調で、販売環境としては悪くないといえます。

ー生産や販売の施策はいかがですか。

生産事業については、飼料価格がようやく落ち着いてきており、これまでに比べて環境は改善されるとみえています。

また、今年は猛暑や疾病による出荷への影響がありました。猛暑対策やワクチン接種など、生産現場で経験値を積んでおり、今後はさらに生産性を向上させることができると考えています。

当社は特長ある国産豚を鹿児島や北海道で生産しており、それをしっかりと得意先に訴求しながら販売していきます。

鹿児島県産「恵味の黒豚」は品質の高さはもちろん、全てフリーストールで飼育されており、アニマルウェルフェアの観点からもしっかりと訴求したいと考えます。

また、北海道産「かみふらのポーク」の販売にも注力します。従来は道内での販売にほぼ限られていましたが、今年度は本州でもかなり商談が進んでおり、販売が拡大しています。

輸入については、チルドではメインブランドのハイライフポークをはじめ、新たに取り扱いを開始した米国ホールストーン社、メキシコGCM社など、北中米産を販売。



ホールストーン社は、米国でも非常に稀有なサプライヤーです。200以上の小規模な農家が一括にまとまって、大手企業と競っています。当社としても、そうした背景を持つ彼らと組むことで、互いに大きく成長したいと考えています。

一方、フローズンポークは欧州産の生産頭数が減り高値が続く中、日本市場ではブラジル産の輸入量が増加。当社も取り扱いを始めており、コンスタントに買い付けています。また、今後は北中米産のフローズンポークについても拡大の余地があると考えています。

ー販売を強化する販路などはありますか。

引き続き外食業態への提案を強化するのに加え、22年に子会社化したEコマースチャネルのミートガイを活用し、さまざまな施策を進めます。

同じく子会社のジャパンミートでは、宮崎県のふるさと納税返礼品を供給。今回、新たに西日本ベストパッカーも鹿児島県のふるさと納税返礼品のリストに入りました。西日本ベストパッカーは工場内にスライスパックの加工施設を持ち、それを活用して今後はさらに加工度を高めた商品開発も進めていきます。

また、西日本ベストパッカーやかみふらの工房では、自社の新鮮な内臓肉を原料として使用できる強みがあります。かみふらの工房では、さまざまなアイテムを開発して販売し、好評です。西日本ベストパッカーも、最近は好調なインバウンド需要の影響もあり、ラーメン店向けの豚脂などの引き合いは強いものがあります。

ギフトでは「恵味の黒豚」やハイライフポークテーブル監修商品に加え、既存品についても原料により

こだわり、ブラッシュアップしました。

—中長期的に取り組むべき課題は。

国産では、当社の食肉事業における成長戦略の1丁目1番地にあたる養豚事業の成長を図るため、外部からの知見の導入、さまざまな投資などを積極的に進めます。

一方、輸入豚肉では、ハイライフポークを中心としたブランド戦略を進めるのと同時に、昨今の日本を取

り巻く環境を考慮した上で、生産のしやすさや価格訴求力など、生産者にも購買者にもフレンドリーな商品の品ぞろえを強化します。

また、少子高齢化によって市場が縮小する中、継続的に安定した収益を確保するためにも、生産、販売に加え、今後は畜産新技術の活用による新たな領域への参入なども含め、さまざまな可能性を検討していきます。

姫路和牛枝肉品評会が和牛マスターで開催、井寄牧場が名誉賞に

第197回姫路和牛枝肉品評会が20日、和牛マスター食肉センター(姫路市食肉地方卸売市場)で開催された。同品評会は2010年に発足した姫路和牛生産部会のブランド牛である「姫路和牛」「プレミアム姫路和牛」の研さんを目的に毎月開催されているが、11月に年に1度の総大会として、規模を拡大して開かれている。今回、但馬牛41頭(雌9頭、去勢32頭)、黒毛和種5頭(3頭、2頭)の計46頭を出品。このうち、(有)井寄牧場出品牛を名誉賞に選出。同牛はキロ当たり7051円でエスフーズ(株)が買い受けた。

開催にあたり全国農業協同組合連合会連合会兵庫県本部・畜産部の田口元茂部長(下写真)が「1年の中でも最も大きな品評会として開催している。姫路和牛生産部会の皆さまが愛情を込めて育て上げた牛。ご理解の下、格段のお買い上げをお願いしたい」と呼びかけた。

姫路和牛生産部会は兵庫県の西播地区の生産者の集まりで、毎月の品評会の実施などで密な情報交換と研さんを行っており、近年は枝肉重量やBMS、小ザシなど、品質の向上が目覚ましく、但馬牛の発展に貢献している。

井寄牧場出品の名誉賞牛は、30カ月齢の去勢牛で、枝肉重量433kg。格付はA5等級のBMSNo.12。血統は父「丸池土井」、母の父「芳山土井」。井寄牧場は黒毛和種2千頭を飼養。このうち400頭程度が但馬牛で、この中の100頭が繁殖雌牛。井寄牧場の井寄智次郎さん(上写真)は名誉賞牛について「但馬家畜市場からの導入牛で病気もなくすくすく育った」とし「1年ほど前から背が広く、ロース芯が大きくなりそうな四角い体型に育っていた。但



馬牛らしく、もっと長く飼ってもさらに良くなりそうな牛。また母牛が名牛なので期待していた。母牛は肥育牛を作る上で非常に重要。但馬牛の閉鎖育種の中で、独自に多様性のある母牛生産に力を入れていきたい。能力が高いさまざまな母牛作りをすることで、但馬牛を後世に残していくことにもなり、地域貢献にもなる。但馬牛・神戸ビーフの飛躍に貢献していきたい」と話した。

そのほかの入賞牛の出品者は次のとおり。

最優秀賞 井寄牧場(6千円、購買者=エスフーズ)、谷口牧場(6千円、同)▽優秀賞 盛本和喜(5757円、同)、田中牧場(5650円、同)、太市共同牧場組合(2720円、同)

福留ハムが「ミートフェスタ広島」開催、新シリーズ「MIRAI」などを提案

福留ハムは20日、広島市西区の同社広島支店で2024ミートフェスタ広島を開催。年末商品商談会を行ったほか、国産牛肉即売会、輸入食肉の提案などを行った。

今回は昨年引き続き回復傾向にある外食や堅調に推移する量販店の総菜部門などをターゲットにした業務用商品の提案を行ったほか、主原料に国産豚肉と塩だけを使った食肉加工品「MIRAIシリーズ」を大々的にPR。また、時短料理の強い味方として「包丁いらずのパラパラミニ」シリーズ、汎用性の高さを訴求する「超うす切り切り落とし」シリーズ、冬場の食シーンに向けた「鍋・おでんの具」、10%増量企画を実施している「肉厚ハンバーグ」、さまざまな味を楽しめる「あらびきKINGアソート」、価格対応品として「ショルダーベーコン」「肩ロースのハム」などを紹介した。

年末年始のごちそうとしては「和牛ローストビーフ」「国産牛肉使用ローストビーフ」「みすじローストビーフ」「野菜と一緒に食べるシリーズ」「サクラ咲く 花ソーセージ」、オードブルでは「チキンリング」「チキンナゲット」「炭火焼 焼鳥」「チキンカツ」なども提案。また、原料肉の形を生かした「ポークステーキ3枚入り」や「チキン&ポークウインナー」もPRした。

食肉では広島県のブランド牛「神石牛」「比婆牛」「元就」や広島県産かき殻の粉末を飼料に加えた「瀬戸もみじ」のほか、「広島さきゆり三元豚」「黒毛和牛経産切り落とし材」「米国産牛バラカルビ」「北米産ムキタンスライス」「豪州産中落ちロース」「同アウトサイドスカート」「同ハンギングテンダー」「カナダ産大麦仕上三元豚」「ブラジル産パンブローナ社のフローズンポーク」などを提案した。

福原治彦社長(上写真)は今年を振り返り、「食肉、加工品ともバツ。食肉は国産が多い中、牛肉はそこそこ売れたが、豚肉に関してはコストアップを売価に反映できず収益性が厳しかった。輸入食肉は総じて厳しい。加工品についても生産量ダウンが大きい。価格改定を行ったが数量が伸びず、4~9月では16%ほど落ちた。価値訴求を行ってきたものの、求めやすい価格帯の商品を充実させることも必要。



原料や製造工程の見直しは進め、収益性を高め、ボリュームが取れる商品も開発していかなければならない」と語った。

販路については「業務用が微増となり、食肉が上積みとなったが、値上げの影響もあってハム・ソーセージは厳しい」と分析。営業エリアに関しては「中四国、九州がメインであることに変わりはなく、キャパシティが限られる中でシェアアップを図っていきたい。関西や関東には営業のリソースがあるわけではないため、現地企業と深掘りを進めたい」と述べた。

その上で来年に向けて「目新しいものが少ないことも反省点。原点に戻って価格帯や品質を見直し、魅力あるニーズに合った商品が必要だ」と述べ、今回提案した「MIRAIシリーズ」については、「効率化を求める一方で国産豚肉と塩しか使用していない商品。肉のポテンシャルを追求した。専用の製造施設を用意し、健康やおいしさを訴求できるものに仕上がっている。手間がかかると手間をかけるでは少し意味合いが違うと思うが、独自性のある、こだわりの商品として提案していきたい。ストーリー性を訴えることができると思うのでECなども活用しチャンネルを幅広く使っていきたい」と述べた。

全肉連が京都競馬場でイベント実施へー食育と和牛需要喚起に向け

全国食肉事業協同組合連合会は、令和6年度国産食肉理解促進食育実践事業の一環として、11月9、10日の東京競馬場での実施に続き、30日、12月1日には京都競馬場(ステーションサイド2Fテラス)でも食育イベントを開催する。「楽しく学ぼう!おいしいお肉が食卓にとどくまで」をテーマにパネル展示やクイズラリーを実施予定で、安全でおいしい肉を作るための検査の流れや、おいしく無駄なく食べるコツなどを学べる国産食肉情報発信コーナーが設けられる。

1日4回クイズラリーが行われ、参加者には1日500人に抽選で景品が贈呈される。国産食肉の需要喚起

に向けたもので、A賞は黒毛和牛すき焼き用(1日10人に贈呈)、B賞は国産牛肉レトルトカレー(1日150人)、C賞は国産のむヨーグルト(1日340人)。飼料やエネルギーコストが高止まりする状況下、国内畜産を応援する意味も込め、和牛肉などの消費喚起を狙う。



京都市場が牛内臓価格改定、12月2日と畜分から

京都食肉市場は22日、牛内臓価格を12月2日と畜分から改定すると発表した。

黒毛和種、交雑種、乳用種および他種で、枝肉重量150kg~510kg未満の場合は1kg当たり48円(旧

価格45円)とし、枝肉重量510kg以上の場合には1頭当たり2万4480円(2万2950円)(消費税別)とする。また、内臓廃棄は1頭当たり6千円(5千円)引きとする。なお、経産牛は変更はない。

ニュー・クイックがクリスマス商品の予約割を実施、期間限定販売も

全国に94店舗を展開する老舗食肉店ニュー・クイック(株)ニュー・クイック、林浩二社長)は12月1~15日、クリスマスシーズンに向け、ローストチキンやローストビーフの予約割を実施する。同店はクリスマスの食卓を彩る商品として、それぞれ異なる産地、部位、味付けを食べ比べて楽しめるローストビーフ、食肉店のこだわりが詰まったローストチキンを提案。クリスマス商品予約特典として、上記期間中に予約することで表示価格から10%割引となる。

12月21~31日に販売される「国産黒毛和牛ローストビーフ」(税込み1274円)は、クリスマスと年末を豪華に彩る、この時期だけの限定販売商品。4等級の黒毛和牛モモ肉が使われ、口の中に広がる甘みととろける食感が絶品。通年販売の「国産きわみ牛ローストビーフ」(950円)も予約特典の対象商品で、同店自慢のプライベートブランド「きわみ牛」を使用し、くどさのない脂質と濃厚なうまみを感じられる balan

スが魅力だ。そのほか、国産、豪州産のローストビーフもラインアップしている。

「おこめ赤鶏ローストチキンレッグ」(1296円)は、岩手県で飼料米を食べた約60日間じっくりと育てられた鶏を使ったもので、適度な弾力とかむほどにコクを感じるうまみがポイント。「国産鶏ローストチキンレッグ」(754円)は四国が産地で、スチーム調理後にオーブンで香ばしく仕上げたボリューム感のある一品。いずれも12月21~25日の期間限定販売となる。



パルシステム東京、畜産から生まれる電気を発電所からリアルタイム配信

パルシステム東京(東京都新宿区大久保、松野玲子理事長)は12月7日14~15時45分、バイオマス発電所内部を中継で紹介するオンラインイベントを開催する。パルシステム電力(新宿区大久保、大安さとの社長)が契約する岩手と山形の畜産産地から、廃棄物をエネルギーへと再生する電気の作り手たちとリアルタイムで交流するとしている。

発電の様子を中継するのは、(株)十文字チキンカンパニー(岩手県二戸市、十文字保雄社長)と東北おひさま発電(株)(山形県長井市、後藤博信代表)

十文字チキンカンパニーは、オリジナル商品「までっこ鶏」の産地としてパルシステム東京と産直提携を結んでいる。飼育時に年間約13万t発生する鶏ふんをエネルギー源として発電するため、2016年から岩手県九戸郡でバイオマス発電所を稼働させている。中継では事業所内からの紹介をはじめ、鶏ふん約3tを投下できるクレーン稼働などをリアルタイムで伝える。

里山の自然エネルギーで地域再生を目指す東北おひさま発電は、ながめやまバイオガス発電所(山形県西置賜郡飯豊町)で牛の排せつ物や食品残さから発生させたバイオガスで発電。20年、肉用牛では日本初となるバイオガス発電所を整備した。牛舎をはじめ発酵槽内部などの施設を紹介する。

両発電所で働く人たちには、操業に至るまでの経



緯や電気利用者へのメッセージなどをインタビューし、生の声を伝えるとし、参加者からも疑問やメッセージを投げかけることができ、地域資源を活用する電気の作り手と直接交流の場とするとしている。開催概要は次のとおり。

「パルシステムでんき産地オンライン交流企画 地域で生きるバイオマス発電」

【日時】2024年12月7日14:00 ~ 15:45【開催方法】オンライン(Zoomミーティング)【参加費】無料【定員】100人【登壇者】(株)十文字チキンカンパニー、東北おひさま発電(株)、(株)パルシステム電力【申し込み】https://pb002.pal-system.biz/kdou/com.kdou.wp_kkwmk?INS,00023845,0,0,0【申込締め切り】11月27日12時【企画詳細】<https://www.palsystem-tokyo.coop/event/161581/>

オリジン、「倍バーグ大作戦!!」でお得にボリュームアップ

弁当・総菜専門店「キッチンオリジン」「オリジン弁当」を展開しているイオングループのオリジン東秀(株)(東京都調布市、後藤雅之社長)は25~30日、「倍バーグ大作戦!!」キャンペーンを開催する。

昨年も好評を博した同キャンペーンは、同店人気の「直火焼デミハンバーグ弁当」(税込み594円)、「Dx直火焼デミハンバーグ弁当」(810円)に、プラス300円(324円)で、ハンバーグ1個増しの「W盛り直火焼デミハンバーグ弁当」(918円)、「W盛りDx



直火焼デミハンバーグ弁当」(1134円)を提供。

1人で食べてボリューム満点、家族や友達でシェアするなど、同店自慢のハンバーグを堪能できる。

中国農業農村部、豚と牛の生産動向について見解を公表

中国農業農村部はこのほど、国務院新聞弁公室主催のメディア向け定例会である「第3四半期農業農村経済状況の紹介会」において、現下の豚と牛の生産動向について、記者からの質問に答える形で見解を示した。

記者からの質問は、①第4四半期の豚生産の見通し②豚生産の安定化のために今後中国農業農村部が行う措置についての見解というものであった。

これらの質問に対して同部所属の李敬輝氏は、「豚肉は市民生活にとって不可欠な産品であり、メディアを含め多くの方が豚の価格と供給状況に関心を持っている」とした後、主に次のように回答した。

全国の繁殖用母豚飼養頭数は、24年第3四半期末で4062万頭であり、これは3900万頭という適正な飼養頭数の104.2%に相当する。つまり、合理的な範囲に収まっているということである。子豚の頭数をみれば、生産頭数は24年3月から増加し、一般的に飼養に要する6カ月の期間を加味すると、ちょうど秋冬の消費が伸びる時期に供給されることになるため、市場の需給バランスに合った状態にあるといえる。

他方で、今年から母豚の生産効率が向上し、子豚の産出頭数がこの数カ月間比較的早く増加していることを考えると、これらの子豚が市場に出回るのは来年の春節明けの、例年消費が落ち着く時期に重なってしまうと予想される。そうなった場合、豚肉価格は大幅に下落する可能性がある。養豚に携わる者はこのことに注意を払い、合理的な生産管理を行う必要がある。

中国農業農村部は、「政策によって生産量を安定させ、市場によって供給量を調整する」方策を堅持する。具体的な措置は次の3点に集約される。

①市場観測の強化 豚の生産と市場の動向を常に観測、分析し、適時に公的情報を発信し、市場見通しを適切に指導する②豚肉生産量の安定化 中央と地方の各政府関係部門がそれぞれの責務を果たすよう、責務を明確にし、繁殖用母豚という元栓の管理を適切に行う。豚の生産量を合理的な水準に収め、来年の春節以降に予想される生産過剰による豚肉価格の大幅な下落問題に備える③疾病の予防 秋冬は豚の疾病が発生しやすい時期のため、豚の生

産、輸送、と畜に関するすべての工程において、清掃および消毒を徹底し、疾病に対する観測を強化し、適時に疾病の発生リスクを感知できるようにする。

記者からの質問は、①現下の肉牛および乳牛の生産動向についての見解②今後、中国農業農村部が行う飼養農家を支援するための措置についての見解、というものであった。これらの質問に対して同部副部長の張興旺氏は、「牛市場は今年最も重要な課題の一つであり、かつ、困難なものの一つである」とした後、主に次のように回答した。

牛の生産動向は、飼養農家の収益にとどまらず、肉牛産業全体の健全な発展にも関連する。最近の度重なる努力によって、肉牛の飼養頭数は調整が進み、乳牛の飼養頭数の増加速度も緩やかとなり、価格が緩やかな上昇傾向に転じたことから、飼養関係者の赤字状態もある程度緩和されている。

このように、肉牛および乳牛の生産問題が突出していることについて、中国農村農業部は今年、牛の生産動向を高度に注視し、数度にわたる専門会議を開催したほか、主要生産地区に専門チームを派遣して調査および指導を行ってきた。この成果に基づき24年9月には、「肉牛乳牛生産の安定化に関する通知」として支援策を取りまとめた。地方政府も生産補助など各地の実情に合わせた支援を行っており、政策効果が連動的に表れていることで、生産現場の困難な局面はある程度緩和されている。中国農村農業部は引き続き、各地が「肉牛乳牛生産の安定化に関する通知」など関連政策を確実に実行するよう指導する。通知の実施における重点は、次の「五つの強化」である。

①観測の強化 適切な動向の分析を行い、業界動態に関するデータを適時発信することによって飼養関係者による牛の適切な生産調整を指導する②生産安定化の強化 母牛群の頭数を安定的に管理することを基本として、母牛の産出能力と繁殖効率を向上させる。生産量を管理してこそ持続的な発展が可能となる③飼料作物の供給保障の強化 飼料を適切に使い、適切に貯蓄する政策を強化する④金融支援の強化⑤技術指導サービスの強化。(農畜産業振興機構)

【東京食肉卸売市場】牛、豚ともにもちあい

[牛] 前週は和牛、交雑牛ともに堅調。年末に向け和牛上物は引き合いが強く、雌は4千円を超える物が散見され、4等級は等級内の価格差が縮まっている。昨年を上回る高値で推移している交雑牛は、ここにきて一服感がみられる。

気温が一段下がったことから、部分肉は鍋物商材を中心に動いている。また、ヒレ、ロースは品薄、カタ系は逼迫感が続いている。末端消費はまだそれほど強くはないが、量販店などから年末年始向けの発注が出そろい始めている。冷凍在庫が不足し必要量が確保できていない卸も少なくないようで、しばらくは堅調な相場が続くと予想される。

今週の上場は400頭を予定。和牛去勢A5は2600~2700円、A4は2300~2400円、A3は2100~2200円、交雑牛去勢B4は1600~1700円、

B3が1500~1600円、B2が1400~1500円か。

[豚] 前週は関東でも真冬並みの気温を記録するなど、鍋物需要はさらに増加。量販店などでは、バラなどのスライス系商材の引き合いがさらに強まっている。

一方、出荷頭数は週を通じて引き続き6万頭後半で推移。本格的な冬を前に疾病などへの警戒感も強まっているが、安定的な出荷状況が続いている。

相場についても上物価格500円台半ばをキープしており、それなりに底堅い展開となっている。輸入ポークの入船遅れなどもあり、供給面に不透明感があることに加え、円安や現地相場高の影響もあって、国産物への引き合いは強い。

まもなく12月に入りますが、年末に向けた手当てのピークはもう少し先か。もちあい。

【大阪市食肉卸売市場】牛11月はもちあい、豚異例の高値基調続く

[牛] 同じ和牛A5等級でも、個体によってかなりの価格差がみられている。BMSや歩留まり、モモ抜けなどの個体差もあるが、年末を前に、需要がまだ高まり切っていないことから、和牛価格の底上げが進んでいないともいえる。11月も終わりがみえているが、まだまだ仕入れに対して慎重な姿勢が見受けられる。

ただ12月に入ると、年内の残りの上場数も限りが見えてくるため、それまでに必要な分の手当てが急がれ

る。このため、12月に入れば和牛価格も上昇してくるだろう。今週についてははまだもちあいか。

[豚] 11月も下旬だが、大阪市場の豚枝肉相場は引き続き異例の高値を維持しており、卸売業者にとってはかなり厳しい仕入状況が続いている。まだしばらく高値が続くきそうで、今週も価格を維持する見通し。

松のや、しっとりやわらか「丸太ヒレかつ定食」新発売

(株)松屋フーズ(東京都武蔵野市、瓦葺一利社長)はトンカツ専門店の「松のや」で、27日から「丸太ヒレかつ定食」(税込み930円)を発売する。

販売するたび、好評を博している同店の「ヒレかつ」。脂身が少なくしっとりみずみずしい食感で、あっさり食べられる人気の「ヒレかつ」がグレードアップして登場。丸太のように切り出した希少部位の「ヒレ」を、サクッと香ばしく1本揚げに仕上げた、ヒレ肉

の醍醐味であるみずみずしさ、軟らかさ、繊細な食感をより深く味わえる逸品となっている。(提供時は食べやすいよう、カットして提供)特製みそダレや、鬼おろしポン酢のトッピング、また、先日発売を開始した「極厚ロースかつ」との「盛合せ定食」も販売中。

満足感のある食べ応えと、豚肉本来のうまみを味わえる。

MAFF 農林水産省

(令和6年11月20日時点)

令和6年度 国内における高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ発生状況

○野鳥 12道県36事例

※詳細は環境省HP参照 https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/

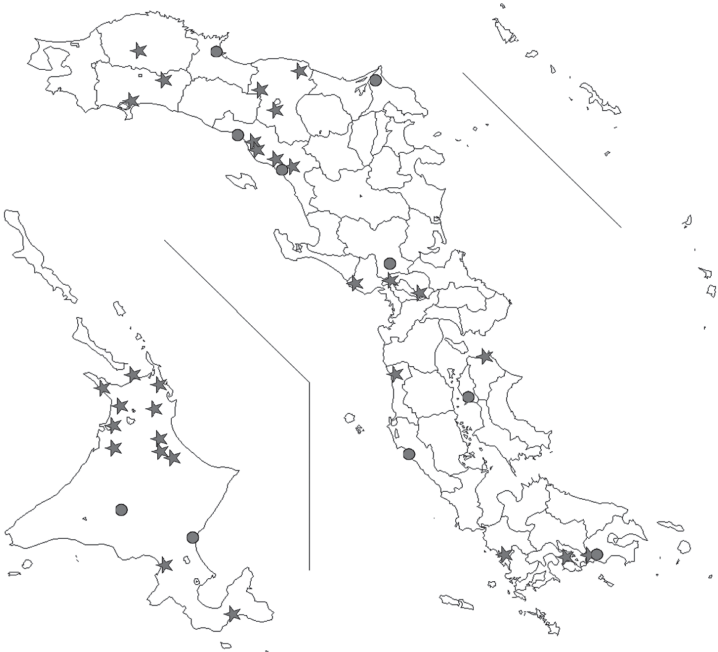
検体回収場所	検体回収日	種名	病原性	亜型
1 北海道乙部町	9/30	ハヤブサ	HPAI	H5N1
2 北海道別海町	10/8	糞便(カモ類)	HPAI	H5N1
3 北海道斜里町	10/16	オジロワシ	HPAI	H5N1
4 福島県会津若松市	10/18	コガモ	HPAI	H5N1
5 新潟県長岡市	10/21	オオタカ	HPAI	H5N1
6 秋田県湯上市	10/21	コガモ	HPAI	H5N1
7 新潟県阿賀野市	10/23	オオタカ	HPAI	H5N1
8 北海道清里町	10/24	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
9 滋賀県長浜市	10/25	ハヤブサ	HPAI	H5N1
- 福島県いわき市	10/26	カルガモ	LPAI	H5N3
10 北海道浜中町	10/25	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
11 北海道斜里町	10/29	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
12 北海道釧路市	10/30	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
13 北海道北見市	10/31	ハヤブサ	HPAI	H5N1
14 北海道大空町	10/31	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
15 徳島県阿南市	10/24	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
16 北海道池田町	10/30	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
17 北海道本別町	10/31	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
18 新潟県十日町市	11/1	オオタカ	HPAI	H5N1
19 新潟県新潟市	11/3	キンクロハジロ	HPAI	H5N1
20 鹿児島県出水市	11/4	環境試料(水)	HPAI	H5N1
21 北海道標茶町	10/22	タンチョウ	HPAI	H5N1
22 秋田県横手市	10/31	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
23 北海道清里町	11/1	タンチョウ	HPAI	H5N1
24 福岡県福岡市	11/1	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
25 岩手県盛岡市	11/3	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
26 滋賀県草津市	11/5	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
27 福井県福井市	11/9	ハヤブサ	HPAI	H5N1
28 鳥取県鳥取市	10/29	カモ・ハクチョウ類	HPAI	H5N1
29 北海道札幌市	11/10	ハンショウガラス	HPAI	H5N1
30 鹿児島県出水市	11/11	環境試料(水)	HPAI	H5N1
31 福島県福島市	11/13	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
32 鳥取県鳥取市	11/7	糞便(カモ類)	HPAI	H5
33 熊本県天草市	11/12	ヒドリガモ	HPAI	H5
34 鹿児島県出水市	11/16	ナベヅル	HPAI	H5
35 鹿児島県出水市	11/17	ナベヅル	HPAI	H5
36 鹿児島県出水市	11/17	ヒドリガモ	HPAI	H5

※ HPAI: 高病原性鳥インフルエンザ
LPAI: 低病原性鳥インフルエンザ

○家さん 8道県10事例

地域	疑似患者判定日	用途	羽数(約)	亜型
1 北海道厚真町	10/17	肉用鶏	2.0万羽	H5N1
2 千葉県香取市	10/23	採卵鶏	3.7万羽	H5N1
3 新潟県上越市	10/26	採卵鶏	0.02万羽	H5N1
4 島根県大田市	10/31	採卵鶏	40.2万羽	H5N1
5 新潟県胎内市	11/6	採卵鶏	33.7万羽	H5N1
6 香川県三豊市	11/7	採卵鶏	4.3万羽	H5N1
6 関連 香川県観音寺市	11/7	採卵鶏	2.8万羽	-
7 宮城県石巻市	11/10	肉用鶏	12.3万羽	H5N1
7 関連 宮城県石巻市	11/10	肉用鶏	4.8万羽	-
8 北海道旭川市	11/12	採卵鶏	4.4万羽	H5N1
9 岐阜県本巣市	11/19	採卵鶏	1.5万羽	H5
10 鹿児島県出水市	11/20	採卵鶏	12.0万羽*	H5

*疑似患者確認時の羽数



● 家さん
★ 野鳥

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月22日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 94頭	高値	4,331	2,725	2,218	-	-
		安値	2,328	2,270	1,944	-	-
		平均	2,716	2,392	2,146	-	-
		頭数	63	26	5	-	-
	雌 B -頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 A 215頭	高値	4,523	2,537	2,332	2,000	-
		安値	2,281	2,260	2,061	1,800	-
		平均	2,678	2,394	2,194	1,903	-
		頭数	157	39	17	2	-
去 B 2頭		高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	2,379	2,087	-	-	-	
	頭数	1	1	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B 1頭	平均	-	-	1,155	-	
	去 C 3頭	平均	-	-	1,135	1,133	
交雑牛	雌 B 9頭	平均	-	1,676	1,538	1,315	-
		頭数	-	1	6	2	-
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 B 23頭	平均	-	1,739	1,501	1,401	-
		頭数	-	6	7	10	-
		去 C 5頭	平均	-	1,587	1,513	1,381
	頭数	-	2	2	1	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	430 432	943 1,064	- 297.5	(競り)	(対)	
				-	26	70

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,159	1,844	1,376	1,145	-
	B	-	1,502	1,345	1,108	756
和 去	A	2,552	2,314	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	847	806
	C	-	-	-	741	752
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	796
交 雌	B	-	1,633	1,575	1,417	-
	C	-	-	1,282	1,268	727
交 去	B	-	1,688	1,559	1,395	-
	C	-	-	1,345	1,337	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	648	799	719	652	540
	安値	572	540	508	505	378
	平均	596	558	549	540	482
	頭数	(12)	(405)	(421)	(136)	(90)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 対	高値	-	615	486	497	497
	安値	-	615	475	432	356
	平均	-	615	481	461	472
	頭数	(-)	(6)	(4)	(8)	(8)

[大阪食肉卸売市場] 11月22日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,814	2,148	2,042	-	-
(頭数)	(5)	(7)	(1)	(1)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(1)	(1)	(-)
和 去 A	2,611	2,224	-	-	-
(頭数)	(7)	(7)	(-)	(-)	(-)
B	-	2,069	-	-	-
(頭数)	(-)	(2)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,890	1,830	1,578	1,514	-
C	-	1,683	1,558	1,443	-
交雑去 B	-	1,794	1,657	1,535	-
C	-	1,701	1,565	1,530	-
豚	664	620	605	552	463

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	11月22日	11月21日	(11月累計)
豚	67,100	69,200	1,032,200
成牛計	5,120	4,560	74,950
和牛雌	1,540	1,150	19,280
和牛去勢	1,030	1,250	19,710
乳牛雌	750	890	11,380
乳牛去勢	370	500	7,680
交雑雌	680	380	7,970
交雑去	750	380	8,780

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 11月22日

	1,417円	(前日 1,487円)
東京		
大阪	1,501円	(前日 1,547円)

[豚・全農建値] 11月22日

上	中	取引頭数	市況
557円	543円	1060頭	強もちあい

と畜 売買	牛 62頭 牛 86頭	豚 137頭 豚 124頭	牛概況 豚概況	もちあい 急落
----------	----------------	------------------	------------	------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月22日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	583 (583)	- (-)	6,028	-	もちあい
仙台 [中]	577 (567)	530 (518)	550	55	反発
宇都宮 [地]	549 (539)	535 (530)	1,616	77	反発
茨城 [地]	567 (563)	547 (547)	1,458	617	小反発
群馬 [地]	558 (553)	482 (468)	2,133	495	小幅続伸
さいたま [中]	553 (553)	542 (542)	246	243	もちあい
東京 [中]	558 (549)	549 (540)	943	1,064	小幅上伸
横浜 [中]	561 (563)	538 (542)	639	650	もちあい
山梨 [地]	- (545)	- (564)	79	8	休市
浜松 [地]	543 (562)	483 (488)	313	41	下押し
名古屋 [中]	593 (592)	560 (574)	968	275	強もちあい
京都 [中]	568 (575)	558 (556)	116	40	もちあい
大阪 [中]	620 (663)	605 (616)	137	72	急落
神戸 [中]	560 (559)	551 (559)	-	49	もちあい
岡山 [地]	629 (672)	656 (674)	280	338	反落
広島 [中]	593 (-)	557 (-)	227	50	続伸
福岡 [中]	570 (568)	541 (527)	266	142	強もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 11月15日～11月21日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,782,534 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,132	1,184	1,260	1,184	94,836
うで	713	786	822	783	155,155
ロース	1,007	1,113	1,202	1,116	174,194
ばら	1,188	1,286	1,359	1,290	192,402
もも	745	778	816	780	205,734
ヒレ	1,058	1,134	1,271	1,143	17,150
セット	924	1,017	1,081	1,014	943,063

◇近畿圏 総重量 770,109 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,280	1,333	1,267	64,741
うで	708	757	810	753	128,401
ロース	1,058	1,194	1,254	1,170	107,855
ばら	1,253	1,275	1,299	1,278	142,757
もも	713	733	778	735	165,713
ヒレ	1,041	1,188	1,291	1,161	10,077
セット	858	972	1,066	969	150,565

[食鳥正肉日経相場] 11月21日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	654	700	814	148
ムネ	359	398	493	128

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	661	716	990	8
ムネ	368	421	550	6

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月21日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	947	600	550	600	650
安値	668	372	290	360	350
平均	715	410	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉に関する**最新**のニュースを、どこよりも**早く**お届け!

日刊食肉速報

2024年11月、リニューアル!

A4版にリニューアルして更に見やすくなりました。

また、紙媒体だけでなく、新設されたWEBページでいつでも手軽に情報チェックが可能に。

食肉関連の行政、業界の動向をはじめ、国産と輸入の相場市況、企業情報など、これからも鮮度の高い日々の業界ニュースをお届けいたします。

紙媒体

A4版に
サイズUP!



**WEB
サービス版**

手軽に情報チェック!
バックナンバーも
探しやすい!



購読料は
そのまま!



仕様 | 11ページ
(表紙)カラー (中面)モノクロ
発行 | 月曜から金曜 (祝祭日を除く)
購読料 | 1カ年 82,080円(税・送料込)
6カ月 42,120円(税・送料込)

*写真はイメージです。

広告スポンサー募集

日刊だからこそ、効率的なタイミングでPR!

業界紙として70年の歴史をもつ信頼性の高い本紙にて、広告を出しませんか?
広告サイズは幅広く対応可能です。ぜひ、貴社のビジネスにお役立てください。

イベント情報など
スポット告知に最適

ターゲットを絞った
訴求力の高さ

70年の歴史をもつ
信頼性の高い業界紙

● 購読・広告掲載に関するお問い合わせ ●

東京支社 ☎03-3663-2011 ✉mail@shokuniku.co.jp

株式会社 食肉通信社